

平成30年4月18日  
内閣府知的財産戦略推進事務局

## 地域プロデュース人材育成のための実証調査の予定等について

内閣府知的財産戦略推進事務局では、「クールジャパン人材育成検討会最終とりまとめ」を踏まえ、地域プロデュース人材に必要な能力を養うために有効な人材育成手法などについて、高等教育機関等において実証を行うこととします（平成29年度補正予算）。

「地域プロデュース人材育成のための実証調査」として、例えば、

外国人留学生等が地域の産業や自治体等と連携して地域プロデュース人材として育成され、就業して地域活性化に貢献する

大学等の教育機関において、地域の産業や自治体と連携することに加えて外国人材と協働する実習や課程等を通じて、地域プロデュースを担う学生等が、外国人視点を取り入れた効果的な海外展開やインバウンドの企画・実施等に携わる能力を身につける等を、地域プロデュース人材育成の過程に組み込むなどの実証を行い、その効果・改善点を調査・分析し、地域プロデュース人材育成に向けて、広く取組の参考として活用していくものです。

今後、次ページの通り実証を予定しておりますので、御案内いたします。

（参考）クールジャパン人材育成検討会最終とりまとめ（抜粋）

6．地域プロデュース人材

（4）今後の取組の方向性

（ウ）第一次とりまとめにおける対応の方向性と取組状況・今後の展望

- ・地域プロデュース人材育成のために必要となる能力を養うために有効な地域プロデュース人材育成手法などについて、高等教育機関等において実証を行い、高等教育機関や業界団体等が参考とできる先進事例を形成し、全国に周知する。

（[http://www.cao.go.jp/cool\\_japan/kaigi/jinzai/jinzai.html](http://www.cao.go.jp/cool_japan/kaigi/jinzai/jinzai.html)）

## 実証調査の予定

今後、本事業の内容等が変更になることもありますので、あらかじめ御了承ください。

実施内容	<p>(1) 「クールジャパン人材育成検討会最終とりまとめ」において記載された、地域プロデュース人材育成の過程に組み込むことが効果的と考えられる事項（<u>別添のとおり</u>）を活用した取組や、産学官が連携して外国人留学生を地域プロデュース人材として育成する取組であること。</p> <p>(2) 先進的・試験的な取組であること。</p> <p>(3) 以下の内容が企画提案に記載されていること。</p> <p>クールジャパン人材育成検討会最終とりまとめ (<a href="http://www.cao.go.jp/cool_japan/kaigi/jinzai/jinzai.html">http://www.cao.go.jp/cool_japan/kaigi/jinzai/jinzai.html</a>)における地域プロデュース人材育成（P41～P50）を推進するための工夫が提案事項に含まれていること。</p> <p>事業においてどのような地域プロデュース人材育成を想定し、どのような効果を期待しているかを提示すること。</p> <p>事業の実施による地域プロデュース人材育成方策の実証を行うことにより、今後の地域プロデュース人材育成の取組の参考になるものであり、またこのような取組を促すことが期待されることの説明を提示すること。</p> <p>（可能な限り来年度以降の取組を含めた）実施計画を提示すること。</p> <p>企画の背景と課題を提示すること。その課題に対応した実証として、課題の抽出や成果等の効果検証の手法を提示すること。</p>
実施期間	契約締結日～平成31年3月中旬頃
実施場所	日本国内
募集時期	平成30年4月下旬～6月頃（想定）
採択予定件数	2～3件程度（募集、採択時期については異なる場合がある）

本件問合せ先：

内閣府 知的財産戦略推進事務局 滝本、石下谷、宇都宮

TEL：03-3581-2549

FAX：03-3581-4351

## 今後地域プロデュース人材育成カリキュラムに組み込むことが効果的と考えられる事項

地域プロデュース人材育成の目的は様々であるが、一般に中長期的な地域活性化のためには海外の成長を取り込んでいくことが重要であることに鑑み、地域資源の海外展開力や、訪日外国人向けの訴求力を高めるための要素を入れることが、カリキュラム構成上重要であると考えられる。

社会科学をベースとする地域プロデュース人材育成プログラムにはデザイン思考を育む科目が設けられていないケースがみられる。情報発信、商品・サービス提供、体験など顧客とのすべての接点を「デザイン視点」で設計・編集し魅力を高めることは、地域の魅力のプロデュースや地域の課題解決においても基盤となるものであるところ、デザイン思考を養う科目をできるだけカリキュラムのベースとなっている学問領域に関わらず組み込むことが効果的であると考えられる。

地域の企業、自治体、コミュニティに入っていく実習については、できるだけプログラムの履修者自らが事業や地域づくりプランを構想し、連携先とコミュニケーションをし、実践する中で、地域マーケティング、海外プロモーション、リーダーシップ等を身に付けるような科目構成とすることが、プロデュース力や協働力を身に付けるうえで効果的であると考えられる。

地域プロデュースにおいて地域の企業、自治体、コミュニティ等との協働は必要不可欠であるが、外国人視点を引き出す外国人材との協働力を養うことも、事業や地域づくりの付加価値を高めるうえで重要であると考えられる。

事業の魅力を事業の様々な要素が持つストーリーによって高めたり、地域の魅力を高めるために様々な地域資源をストーリーでつないで地域への来訪者に提供するようなノウハウを養うことも、事業や地域づくりの価値を高めるうえで重要であると考えられる。(経済産業省の地域ストーリー事業参照)

ターゲット層による検索を発信したい地域資源に引き付けたり、強い影響力を持つブロガーなどのインフルエンサーと協働して地域産品への需要や地域への来訪意欲を高めたりするような、デジタルマーケティング力を養うことが地域の魅力の効果的発信に資する。

必要な地域プロデュース人材や地域プロデュースに必要な能力は、地域の環境や地域が抱える課題によっても異なる場所であり、地域プロデュース人材の育成やその活用は、地域活性化のためにそれぞれの地域が何を必要としているかというニーズも踏まえて行うことが効果的である。